

発言通告表（一般質問）

令和5年11月定例会

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	望月 徹（11）	<p>1. 小中一貫教育実施と施設一体型小中一貫校に向けて</p> <p>本市は、令和6年4月より全市で小中一貫教育を実施します。本市の小中一貫教育は従来の6・3制を一体的に捉え、子供の発達段階や各学年での特徴を十分理解し、4・3・2制の3ステージに分けた教育システムへ変更するとともに、小中学校の教職員の協働による一貫性・連続性のある支援へと教育活動の質を高めることを目的としています。</p> <p>また、本市は全国でも早い段階で、施設一体型小中一貫校松野学園を令和4年4月から開校しました。新しい教育分野のよさを体現しています。</p> <p>小中一貫教育実施と施設一体型小中一貫校に向けて、懸念されることを含め、以下質問いたします。</p> <p>(1) 令和6年4月からの一貫教育実施に当たり、現状と今後の取組について。</p> <p>(2) 小学5年生から中学1年生までの中期第Ⅱステージを一貫教育の要の時期と位置づけているが、施設分離型での小中一貫教育で、連続性を含め、具体的な取組について。</p> <p>(3) 小中一貫教育の取組として、乗り入れ授業や教科担任制を一部で導入するとあるが、具体的な取組について。</p> <p>(4) 中学進学時に不登校となる児童の減少を目指しているが、施設分離型での効果をどのように描いているのか。</p> <p>(5) 本市は、富士市公共建築物長寿命化指針に基づき、目標使用年数を原則65年としている。文科省の学校施設の長寿命化計画策定に係る手引では、目標耐用年数を70年から80年程度としているが、教育施設で老朽化している施設の更新について、どのような対応をしているか。</p> <p>(6) 小中一貫教育は施設一体型小中一貫校へのステップと捉えるが、その道筋をどのように描いているか。</p>	市長 教育長 及び 担当部長